

Japan Weeks 2025 オープニング・レセプション

伊藤長官 基調講演

(令和 7 年 10 月 20 日 (月) 18:15～18:25)

金融庁長官の伊藤豊です。本日は「Japan Weeks 2025」オープニング・レセプションにご参加いただき、誠にありがとうございます。

「Japan Weeks 2025」の開催にあたり、まず、国内外の金融事業者の皆様のご協力を賜りましたこと、心より御礼を申し上げます。また、本日のレセプションをご準備いただいたブルームバーグの皆様に厚く御礼申し上げます。

【Japan Weeks 2025】

先ほど加藤大臣からもありましたとおり、「Japan Weeks」は日本市場の魅力を官民一体で国内外に積極的に発信していくため、2023 年に始まりました。

2023 年当初は 25 件であったイベントが、今年は 90 件近くのイベントが開催される規模に拡大しております。

日本市場に対する国内外の投資家の方々の関心の高まりをひしひしと感じ、大変心強く思うとともに、金融庁としても、これまでに打ち出した施策を着実に進めていかななくてはならないとの思いを強くしております。

主なイベントをご紹介しますと、明日 21 日に行われる「資産運用フォーラム」年次会合では、日本の資産運用業の改革に向け、国内外の資産運用業者の方々にご議論いただき、その成果をステートメントとして公表されると承知しております。

明後日 22 日の「アジア・デー」においては、アジアの金融当局関係者やグローバルに活動する資産運用会社の幹部の方々との間で、アジア地域における相互投資の促進に向けた議論が行われます。

23 日の「アジア GX コンソーシアム」では、金融庁と ASEAN 金融当局との間で、アジアにおけるグリーントランスフォーメーション（GX）投資推進のための実務的な議論が行われます。そのほかにも、様々な業界団体や金融機関の方々により、多様なイベントが行われる予定です。

【資産運用立国の取組】

これまで、金融庁としては、経済の好循環を金融面から支えるべく、「資産運用立国」の取組を着実に進展させてまいりました。先ほど、加藤大臣からもございましたが、NISA の抜本的拡充・恒久化、資産運用業やアセットオーナーシップの改革といった幅広い施策が進展し、「貯蓄から投資」への移行が進んでいます。

昨年 1 月に開始した新 NISA により、18 歳以上の国民の 4 人に 1 人が NISA 口座を保有している状況になりました。

家計の安定的な資産形成を支援するため、若者から高齢者まで全世代の国民が金融リテラシーを向上させながら、一人一人のライフプランに沿った形で資産形成を行うための環境整備を、今後も更に推し進めていきます。

今後の経済成長や国民生活の向上にあたって特に大事なものは、日本企業の価値向上と、その果実が資本市場を通じて家計へと還元されるようにすることです。

そのためには、金融機関や運用会社が成長ポテンシャルのある企業を見いだし、エンゲージメントや成長投資を通じて

設備や人への投資を後押しする、という金融の機能を強化することが重要です。

まず、コーポレート・ガバナンス改革をより実質的なものとするにより、人的資本や成長分野への投資を促進してまいります。経営資源の適切な配分が行われているかの検証や説明責任の明確化等を内容とする「コーポレートガバナンス・コード」の見直しを検討していきます。

また、企業へ成長資金・リスクマネーが供給されることも重要です。例えば、スタートアップ企業の成長を金融面から後押しするため、ベンチャーキャピタルの魅力向上や、東証グロース市場への上場前後の企業に向けた支援の充実、非上場株式の取引促進などに取り組んでまいります。

さらに、趨勢的な人口減少・高齢化の中で地域が持続的に発展していくため、地域金融には、地域経済に貢献する力、「地域金融力」の更なる発揮が求められています。同時に、地域経済の活性化は、地域金融機関の存続基盤の強化につながります。金融庁として、年内を目途に地域金融に関連する施策をパッケージ化した「地域金融力強化プラン」を策定し、強力に推進してまいります。

併せて、企業への資金供給と投資成果の家計への還元が適切になされるよう、企業と家計の橋渡しをする資産運用業やアセットオーナーシップの機能強化にも取り組んでまいります。

【結び】

「Japan Weeks」は、こうした金融庁の取組を、国内外の金融事業者や投資家の皆様に知っていただく機会であるとともに、金融庁の取組について、皆様方から率直なご意見やご

評価を頂ける貴重なコミュニケーションの場であると考えております。

金融庁としては、皆様からいただいたご意見を踏まえながら、日本市場の魅力向上に向けて今後とも取り組んでまいります。また、先ほど加藤大臣から紹介されましたとおり、本日はイギリス FCA のラティ CEO にもお越しいただいております。こうした海外からの参加者による、グローバルな視点での意見も取り入れてまいります。

皆様におかれても、今回の「Japan Weeks」が新たなネットワークやビジネス機会を生み出すきっかけとなり、また日本の市場の魅力を改めて発見する機会となれば幸いです。

ありがとうございました。